

## 「心豊かに、生きる力をはぐくむ教育の研究」

心をたがやす道徳と基礎・基本の定着へ～個から集団への成長を意図して～

### I 研究の内容

本校は平成16・17年度の2年間、山梨県教育委員会より指定を受け「心をたがやす国語力向上推進事業」拠点校として国語力の向上に関する研究を推進し、成果を収めている。このことについては、各分担、各分掌において日々の実践が積み重ねられ結果、ほぼ定着期に入っている。また、18年度は県の指定により「心に元気をはぐくむ道徳教育推進事業」推進校として道徳教育の研究に取り組んだ。より良いものを求める心、より価値あるものを求めようとする心もまた教育活動全般にわたる基盤となるものである。

このような経緯に沿いながら、昨年度は本校の大きな課題である「個々の生徒の学力向上」へと研究を進めてきており、その成果も徐々に上がってきている。まずは、基本となる個の学力アップは当然のことである。その上に立ち、「個」の伸長を意図した上で「集団」のレベルアップを図っていく。生徒の学力を向上させる上で、学習集団の及ぼす力は大きい。

学習習慣や生活習慣の確立など、学びに向かう上での基盤を身につけさせること。「時間を守る」「あいさつをする」「人の話をしっかり聞く」「家庭学習にしっかり取り組む」などは集団活動を展開する前提である。幸い、昨年度から特にそういった基盤に対して、教職員の意識の一致した指導がなされており、今年度もその継続とさらなる工夫を図ってきた。こうした先行きをはっきりと意識した取り組みとして、「集団力」を高める方策を今年度の研究の方向性として提示した。端的に述べるならば、「学力を伸ばす意欲とその実践のできる集団」づくりをするための研究を今年度は意図した。

1. 学びの主体となる生徒の「質的」向上 2. 各教科における現状の把握とそれに伴う指導方法の改善 3. 意欲的に学ぶ集団づくり

以上の視点に基づき、本主題を設定し研究を進めた。

### II 研究の具体的内容と方法

- 1 学びの主体となる生徒の「質的」向上に関わって
  - (1) 道徳教育の充実による生徒の情操の育成
  - (2) 学力向上の取り組み(家庭学習の習慣化と「ステップアップノート」の活用)
  - (3) 国語力向上の取り組みの継続
- 2 各教科における現状の把握とそれに伴う指導方法の改善
  - (1) NRT検査の活用による生徒の実態把握と指導方法の改善
  - (2) 実技教科における指導目標の明確化
  - (3) 評価の改善
- 3 意欲的に学ぶ集団づくり(ソーシャルスキルトレーニングの実践)
  - (1) 学びの場としての基本となる授業規律のいっそうの確立

(2) 楽しい学校生活を送るためのアンケート (=Q-U) の実施と分析・活用

(3) 話し合い活動の活性化 ～話し合いのルール (塩中方式) の確立へ～

#### 4 研究授業の実施

研究の検証の場として授業研を4回実施した。

- ・ 1学期：古屋成美教諭 (3年2組 国語 読むこと「二つの悲しみ」)
- ・ 2学期：丹澤一浩教諭 (1年5組 学活「よりよい話し合い活動を行おう」)  
筒井修子教諭 (2年4組 道徳 望ましい友人関係「班の仲間をもっとよく知るためにインタビューをしよう」)
- ・ 3学期：原谷真仁教諭 (2年4組 学活「1年間を振り返って2年4組で学んだことを考え、掲示物をつくろう」)

### Ⅲ 成果と課題

#### 1 成果

「学力向上への取り組み」の中から「ステップアップノート・テスト・タイム」といった新しい試みは、定着の中からさらに課題を克服していく方策を考えていく必要がある。「ステップアップノートを活用しながら、自主学習する生徒が増えた」という先生方の観察は、定着ということを裏づける何よりの証拠である。「QUの実施と分析・活用」については、どの先生方も大変意義を感じている。積極的な活用としっかりとした分析はQU実施の意義・効力が高まる。次年度も是非実施していく方向が望ましい。「話し合い活動の活性化」は、「話し合いの仕組み・ルールの提示がクラスの話し合い活動に効果があった」とのコメントを先生方からいただいた。「塩中方式」として定着させていく意義はおおいにあると考える。また、今年度の研究の中で、「意欲的に学ぶ集団づくり」に欠かせないものとして、「ソーシャルスキル」という概念を教師がまず意識し、それを生徒に指導、浸透させていく試みがなされた。「人とかかわり」を積極的にもてる生徒、もとうとする生徒の育成にその意義と実効を期待し、各学年、学級の実践がなされているところである。単年度のものでなく、長く、継続ある実践の初めであり、始まりだと考えている。1学期の古屋成美先生による3年国語、2学期の丹澤一浩先生による1年学活、筒井修子先生による2年道徳、3学期の原谷真仁先生の2年学活の各研究授業。今年度、校内研において多大な労苦をほらいながら、授業を提供してくれた4人の先生方には本当に頭が下がる思いである。いうまでもなく、それは塩山中学校の校内研の財産となった。

#### 2 まとめと課題

「NRT検査の利用と指導方法の改善」や「評価と各教科におけるシラバス」に関する内容について、先生方から「教科別部会の時間が～」 「教科研究の時間の設定～」 というような意見が出された。さらに、シラバスについては、内容や活用法に教師間の意識の違いが見受けられる。研究会の持ち方として、限られた時間の中でどうしても全体会を優先せざるを得ない場面が多々あるが、生き生きとした「枝葉」があり、初めて「森」となることからすれば、今年度の研究部会のもちかたは、来年度への課題といえる。シラバスについても同様である。継続研究が今こそ大切だと感じる。

(研究主任 柴田幸也)